

ヨハネによる福音書 11 章 25-45 節

わたしは、よみがえりです。いのちです。～復活の信仰～

11:25 イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。11:26 また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか。」11:27 彼女はイエスに言った。「はい。主よ。私は、あなたが世に来られる神の子キリストである、と信じております。」11:28 こう言ってから、帰って行って、姉妹マリヤを呼び、「先生が見えています。あなたを呼んでおられます」とそっと言った。11:29 マリヤはそれを聞くと、すぐ立ち上がって、イエスのところに行った。11:30 さてイエスは、まだ村に入らないで、マルタが出迎えた場所におられた。11:31 マリヤとともに家にいて、彼女を慰めていたユダヤ人たちは、マリヤが急いで立ち上がって出て行くのを見て、マリヤが墓に泣きに行くのだらうと思い、彼女について行った。11:32 マリヤは、イエスのおられた所に来て、お目にかかると、その足もとにひれ伏して言った。「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。」11:33 そこでイエスは、彼女が泣き、彼女といっしょに来たユダヤ人たちも泣いているのをご覧になると、霊の憤りを覚え、心の動揺を感じて、11:34 言われた。「彼をどこに置きましたか。」彼らはイエスに言った。「主よ。来てご覧ください。」11:35 イエスは涙を流された。11:36 そこで、ユダヤ人たちは言った。「ご覧なさい。主はどんなに彼を愛しておられたことか。」11:37 しかし、「盲人の目をあけたこの方が、あの人を死なせないでおくことはできなかったのか」と言う者もいた。11:38 そこでイエスは、まとも心のうちに憤りを覚えながら、墓に来られた。墓はほら穴であって、石がそこに立てかけてあった。11:39 イエスは言われた。「その石を取りのけなさい。」死んだ人の姉妹マルタは言った。「主よ。もう臭くなっておりましょう。四日になりますから。」11:40 イエスは彼女に言われた。「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか。」11:41 そこで、彼らは石を取りのけた。イエスは目を上げて、言われた。「父よ。わたしの願いを聞いてくださったことを感謝いたします。11:42 わたしは、あなたがいつもわたしの願いを聞いてくださることを知っておりました。しかしわたしは、回りにいる群衆のために、この人々が、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じるようになるために、こう申したのです。」11:43 そして、イエスはそう言われると、大声で叫ばれた。「ラザロよ。出て来なさい。」11:44 すると、死んでいた人が、手と足を長い布で巻かれたままで出て来た。彼の顔は布切れで包まれていた。イエスは彼らに言われた。「ほどいてやって、帰らせなさい。」11:45 そこで、マリヤのところに来ていて、イエスがなさったことを見た多くのユダヤ人が、イエスを信じた。

はじめに

ヨハネの福音書にあるイエス様の7つの“I Am” 「私は、私はある」の断言についてのシリーズを続けてきましたが、今日はその8回目です。イエス様は出エジプト記 3:14にある神様の名前を自分に対して使っています。福音書の順番で言えば、今日の箇所は5番目の断言ですが、先に14章6節の「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」について3回に分けてメッセージをしましたので、今日は8回目のメッセージになります。今日は副題として「復活の信仰」と付けました。その理由を説明しましょう。去年の4月12日のイースター礼拝の時に、今日の聖書箇所について講解説教をしました。OICのWebsiteで今からでもそのメッセージを聴いていただけます。今日は同じメッセージを繰り返さない為に違う角度から見て、解説ではなくて復活の信仰をテーマとして一緒に見て頂きたいと思えます。キリスト教の信仰は復活の信仰です。復活がなかったら、キリスト教は存在していません。イエス様は「私はよみがえりで命です。」と唯一断言出来る、永遠の神の子としての人類の救い主

です。ヨハネ7章46節にあるように「あの人が話すように話す人は今だかつてありません。」という事は明確です。

新年の最初の礼拝のメッセージとして、今日の箇所のイエス様の断言はぴったり合うと思っ
ています。なぜなら、このイエス様の断言とそれに伴う約束は溢れるほどの希望を与えて下さるから
です。去年は誰も想像出来なかったような一年になり、多くの人にとって不安と恐れと失望的な一
年でしたが、今日のイエス様の断言によって、私達は希望を持って新しい年を迎える事が出来
ます。

1. 復活の信仰の賜物

イエス様の最初の弟子達でさえも、誰も復活を信じられませんでした。誰も生まれながらにして
この信仰を持っている人はいません。イエス様は賜物としてそれを自分に従う人達に与えて下さ
います。

ローマ10:9「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の
中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。」イエス様に従っ
て口で自分の主として告白するなら、心の中で復活の信仰の確信を与えられます。

ヨハネ11:25「イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者
は、死んでも生きるのです。11:26 また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことがあ
りません。このことを信じますか。」

亡くなったラザロと彼の二人の姉妹はイエス様のもっとも親しい仲間に含まれていました。イエス
様は最初に、お姉さんマルタにこの断言をしましたが、彼女は信じられませんでした。彼女は神様
の最後の審判の時の復活を信じていましたが、イエス様自身が復活である事を信じられなかつた
のです。

ヨハネ「11:23 イエスは彼女に言われた。「あなたの兄弟はよみがえります。」 11:24 マルタはイエ
スに言った。「私は、終わりの日のよみがえりの時に、彼がよみがえることを知っております。」
このすぐ後でイエス様はお墓の前で入口の石を取り除けなさいと言われ、その時にマルタは言いま
した。「主よ。もう臭くなっておりましょ。四日になりますから。」 今でも、彼女はイエス様
が復活の力を持っている事を信じていませんでした。まだ個人的にイエス様によって復活に対して
心の目を開かれていない状態のマルタは私達皆と全く同じです。

次のイエス様のマルタに対する言葉は、今私達におっしゃっている言葉でもあります。

ヨハネ11:40「イエスは彼女に言われた。「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、
とわたしは言ったではありませんか。」

ここでイエス様は、25-26節でマルタに断言した言葉の意味を説明しています。今、神の栄光を見
るようになりますと言う事です。最後の審判の時まで待つ必要はないのです。

もし、今、これを聞いている人の中で、まだイエス様の復活を信じられない人がいるなら、何も待
つ必要はありません。イエス様はその言葉を言った後すぐラザロをよみがえらせて、マルタの肉眼
だけではなくて、心の目を復活に対して完全に開きました。それと同じ方法ではありませんが、今
肉眼で見る事がなくても、イエス様は私達の心の目を開いて下さって、イエス様にある神の栄光を
見えるようにして下さいます。

第二コリント4:6-7「光が、やみの中から輝き出よ。」と言われた神は、私たちの心を照らし、キリ
ストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったのです。

4:7 私たちは、この宝を、土の器の中に入れていたのです。それは、この測り知れない力が神のも
のであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。」

個人的にキリストの栄光を知る知識は最高の宝物です。先週にも言いましたが、この世の全てを手
に入れても、イエス様を知る事の素晴らしさとは比べ物になりません。自分の中に測り知れない力
があるというのは、イエス様の復活の力が自分の中で働き、信じられない人が信じられる人にな
るのです。

2. 復活の信仰の課題

信者になってから、どこまで自分の中で復活の力を働かせるのが重要になってきます。

エペソ1:18-21.「また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しによって与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか、
1:19 また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように。1:20 神は、その全能の力をキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上においてご自分の右の座に着かせて、
1:21 すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世ばかりでなく、次に来る世においてもとなえられる、すべての名の上に高く置かれました。」

使徒パウロはすでに信じているクリスチャン達の為に祈っているのですが、この内容をよく見て気が付いて頂きたい事がいくつかあります。

まずは、これは全てのイエス様の信者の中で働いている力について書いてあるということです。一部の信者だけではありません。そして、イエス様を死者の中から復活させた力だけでもすごいのですが、それだけではありません。地に於いても、天に於いても、全ての支配と全ての権威、全ての権力と全ての主権の上に、神の右の座に着かせた全能の力が全てのイエス様の信者の中で既に働いているのです。ですから、イエス様を信じるようになった召しによって、どんなに素晴らしい望み、希望が与えられているかが見えるように、更に目がはっきり見えるようにと祈っているのです。既に与えられていても、まだ見えていない部分が大きいので、はっきり見えるように祈っています。全ての信者が最初に神様の全能の力を体験するのは、自分自身の心の中が変えられる時です。イエス様を個人的に知るようになったら、最大の価値観の変化を体験するのです。

第二コリント5:17「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」

「キリストのうちにあるなら」と言う条件だけで、キリストの復活の力が自分のうちにあり、従って行けば行くほどその力が働いて下さいます。大いにその力を自分の中で働かせる方法はキリストの証人として生きる事です。それがこの優れた偉大な力を与えられている最大の目的です。

使徒1:8「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」

もちろん、全ての信者が宣教師や伝道師なのではありませんが、全ての信者が証人として召されています。言葉ではなくても、少なくとも自分の家族や友達などの身近な人の前で自分はイエス様の信者であるとはっきりさせない限り、神様の全能の力が自分の中で働いているのがあまり見えません。信仰の確信と悪魔に打ち勝つ勝利も経験しません。

マタイ28:18「イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。28:19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、

28:20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。

見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

大宣教命令と呼ばれている箇所ですが、イエス様が、神の右の座に着いておられてどんなに力を持っておられるかを伝えているのは、自慢話をしたいからではありません。「この私の命令に従う時に当然、色々抵抗する力が働きますが、何も恐れる必要はありません。私はあなた方の為にもっと優れた偉大な全能の力を持ってあなたがたと共に働きます。」とおっしゃっているのです。

イエス様の信者が自分の体験でどのくらい神様の力を知っているかは、どのくらいイエス様の大宣教命令に従っているかによって決まります。そしてもちろん、身近にいる人々の救いを祈ることから始まります。

マタイ9:36-38「また、群衆を見て、羊飼いのない羊のように弱り果てて倒れている彼らをかかわいそうに思われた。9:37 そのとき、弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。9:38 だから、収穫の主、収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。」

このイエス様の言葉によって先ず祈りから、始まるのが分かります。全てのイエス様の信者は祈りによって参加出来ます。従えば、イエス様の復活の力を体験し始めます。

エペソ人3:20「どうか、私たちのうちに働く力によって、私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方に、」

自分の祈りが小さいから、そんなに貢献出来ないなどと思わないで下さい。神様の働き方は私達の願うところ想像するところをはるかに超えて、私たちに答えてくださいます。

私たちは、それを宣教師としての働きに於いて何回も見てきました。北アイルランドの家で5-6人のおばあさんたちが集まって祈ってくれている時に、日本で何回もその祈りの答えを見て来たのです。

3. 復活の信仰の希望

ローマ人15:13「どうか、望みの神が、あなたがたを信仰によるすべての喜びと平和をもって満たし、聖霊の力によって望みにあふれさせてくださいますように。」

この箇所では使徒パウロはローマにいた信者達の為に祈っています。聖書で神様は、その特徴によって呼ばれる事があります。神様は愛の神と呼ばれたり、平和の神と呼ばれたり、全ての慰めの神と呼ばれたりします。そしてこの箇所では望みの神と呼ばれて私達信者を希望で溢れさせて下さるとい事が書いてあります。

希望は、人間にとって健全な精神を持つ為にとっても大切なので神の武具に含まれています。

第一テサロニケ5:8-9「しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの望みをかぶるとしてかぶって、慎み深くしていきましょう。」

かぶとは頭を守る役目であるのと同じように、救いの望みのかぶとは精神を守るので、「聖霊の力によって喜びと平安を持って満たし、希望に溢れさせて下さいます。」とあるのです。健全な精神を守ってくれる三つのものがあります。聖霊がイエス様の復活を事実として示して下さいる事によって同時にそれを全部体験します。それは、溢れるほどの喜びと平安と希望です。

第一ペテロ2:4-6「主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが、神の目には、選ばれた、尊い、生ける石です。2:5 あなたがたも生ける石として、霊の家に築き上げられなさい。そして、聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえをささげなさい。

2:6 なぜなら、聖書にこうあるからです。「見よ。わたしはシオンに、選ばれた石、尊い礎石を置く。彼に信頼する者は、決して失望させられることがない。」

先ほど言ったように、全ての信者が執り成しの祈りをする事が出来ます。つまり、周りの人の救いの祈りをするように召されているのです。「あなた方は聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえを捧げなさい。」と5節にあるように、全てのイエスの信者は祭司ですから、祭司の一番主な役目は執り成しの祈りをする事です。イエス様は私達の大祭司として聖書に書かれている箇所でも執り成しをして下さっています。

ヘブル人の手紙7:25「したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことができになります。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。」

これは何よりもイエス様に信頼する私達が決して失望させられないということの理由として書かれています。イエス様は復活していつも生きておられるから、執り成しをして完全に救って下さいます。今年は私達一人一人にとって何をもたらすか知らなくても、イエス様は絶対に変わらないという事が分かっているので、イエス様は行き詰まるのが不可能な計画を持って導いて下さいます。

まとめ

エレミヤ書29:11「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。――主の御告げ。――それはわざわいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」

この預言の成就是イエス様の死と復活によって最大の形で実現されました。永遠の希望を与えられていますから、常に、最高のものはこれからやってくるのです。

最後にイエス様と顔と顔を合わせ、そして同じ復活の栄光の新しい体を得ることが約束されています。その時までエレミヤ書の続きを経験出来ます。

エレミヤ29:12「あなたがたがわたしを呼び求めて歩き、わたしに祈るなら、わたしはあなたがたに聞こう。29:13 もし、あなたがたが心を尽くしてわたしを捜し求めるなら、わたしを見つけるだろう。」